

# 多摩デポ通信 第40号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2016年10月30日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <http://www.tamadepo.org/>

●E-Mail [depo\\_tama@yahoo.co.jp](mailto:depo_tama@yahoo.co.jp)

## 次の多摩デポ講座

### 「私の図書館での仕事、 そして多摩六都連携」

多摩六都（清瀬市・小平市・西東京市・東久留米市・東村山市の広域行政圏組織）の図書館長が揃っておいでになります。それぞれの市で進めてこられた図書館行政と図書館に対する思いを語っていただき、同時に多摩六都の連携形成の経過や今後についてお話しいただきます。

西東京市を合併前の田無市・保谷市と数えて「六都」です。多摩北部都市広域行

政圏協議会・多摩六都図書館担当者連絡会として、住民の図書館相互利用にとどまらず、利用カードの共通利用や合同利用者アンケート、実務担当者会議など、多角的な連携事業をしてきた点は、多摩地域では他に例がありません。

登壇者は今年度でご退職の4館長、司会は小平市の湯澤館長。特に、若い職員の方、少し前に若かった職員の方、そして市民の方々もぜひおいで下さい！

多摩地域の図書館の相互理解と連携をすすめる機会にしたいと考えています。

## 第27回 多摩デポ講座

# 「私の図書館での仕事、そして多摩六都連携」

—多摩地域の図書館行政を担う図書館員に聞く その3

お話とパネルディスカッション

伊藤高博館長（清瀬市）、岡野知子館長（東久留米市）、

田中香代子館長（東村山市）、奈良登喜江館長（西東京市）

司会：湯澤瑞彦館長（小平市） 全体司会：齊藤（多摩デポ）

11月14日（月） 午後6時30分～8時30分

立川市女性総合センター・アイム5階 第3学習室

多摩六都（清瀬市・小平市・西東京市・東久留米市・東村山市の広域行政圏）の図書館長に各市で進めてこられた図書館行政と図書館に対する思いを語り、同時に連携形成の経過や今後についてお話しいただきます。四名の館長は皆さん今年度で退職です。若い者・むかし若い者に図書館経験と思いを引き継ぎ、多摩の図書館をより発展させていくメッセージをいただく機会になれば。ぜひご参加下さい！

## 多摩デポ講座の報告

国立国会図書館のデジタル  
アーカイブ事業  
資料デジタル化を中心に

国立国会図書館電子情報部  
電子情報企画課

徳原直子氏

第26回多摩デポ講座は10月6日(木)に25名の参加により開催された。当初は8月30日に予定していたが、台風が接近するとの予報により延期となっていた。

講師の徳原さんは、「電子情報部の営業担当」とユーモアを交えて自己紹介。スライド65枚にも及ぶ大量の資料を使い、資料のデジタル化を中心としたデジタルアーカイブ事業について、丁寧に説明してくださった。事業に対する徳原さんの意欲的、積極的な姿勢が際立っていたが、国立国会図書館の現在の態勢がそれを可能にしている、

との印象も持った。

以下、講演の概要と質疑応答の部分を紹介させていた。当日の資料は徳原さんのご好意により、多摩デポのホームページに掲載予定なのでぜひ参照をお勧めしたい(当日配布した資料に追加があるため、頁数は新しい資料のものを記載した)。

なお、本講座の続編として来年1月下旬に再度、徳原さんに来ていただくことになったことを報告しておく。

### 講演の概要

「電子図書館推進計画2004」に基づき、2004年から取り組んでいるとのことで、国内デジタル資源の収集、資料デジタル化事業、デジタル化資料の提供と利活用、ナショナルアーカイブの構築について話をされた。国内デジタル資源の収集として、インターネット資料収集保存事業(WARP)、オ



ンライン資料収集制度(デポ)の事業に取り組んでいる。資料デジタル化事業については、2000年度から、まとまった規模でデジタル化事業を開始している。マイクロフィルムを作成済みの明治期・大正期刊行図書が主な対象。そして2002年度に「近代デジタルライブラリー」を公開した。最近「資料デジタル化基本計画2016-2020」を策定。デジタル化資料の提供と利活用については、国立国会図書館デジタルコレクション、図書館向け資料デジタル化送信サービスの現況について触れられた。

ナショナルアーカイブの構築については、公共・大学図書館によるデジタル化について触れられたが、NDLサーチを発展させジャパンサーチ(仮称)の実現へ、との構想についての話は時間切れで殆んど聴くことができなかつた。質疑応答の中で若干触れられてはいるものゝ。次回が楽しみである。

### 質疑応答

▼Q 電子書籍・電子雑誌収集実証実験事業(資料11)で、現在のところ公開されているのはどの位か。

▽A 1600〜2000タイトル程度だが殆ど利用されていない。実証実験になつていないので、ぜひ見に来館してください。

▼Q WARPについて(資料5、6)。自館のシステムの変更などでなくなった古いものを逆にWARPからもらうことは可能か。

▼A もちろんできる。実際に委託していた業者のミスでデータが全部なくなってしまったのでください、といった例もある。

▼Q WARP の収集の周期について伺いたい。

▼A 国の機関は月に1回、その他は四半期に1回(3ヶ月に1回)。一時点なので、その間にパッと出てパッと消えたものは収集できない場合もある。

▼Q 「公共・大学図書館によるデジタル化」(資料56)のところで、著作権法で公共図書館でも図書館資料の保存のため、資料をデジタル化できる。それを国立国会図書館に納本すると、国会図書館が公開することができる、というお話だった。公共図書館がデジタル化したものを国会図書館に渡すということは、複製を作ることだと思いが、複製を作るところも法律で認められているという理解でいいのか。

▼A 著作権法第31条第1項第3号の規定により、他の図書館等の求めに応じ、「絶版等資料」の複製物を提供できる、となっている。これは紙の時から、図書館の蔵書とするために他の図書館が持っているものを全冊複写できるので、これを使うことになる。データは複製物なので、法律上可能である。ただし、複製物の提供の際はデータを送信でもらうことはできず、媒体で提供してもらう必要がある。国会図書館は第31条第2項により、それを複製する権利があるので、デジタルデータを複製して、第3項で他の図書館に送信できる、という解釈を明確化した。

▼Q 当館では図書館送信サービスを導入しているが、利用される方がよく混乱しているのは、国会図書館内で検索して、これは地元でも見られると誤解し、「ここでプリントしたい」と来館される。検索がいろいろあり過ぎて、

どれが地元で利用可能な資料なのか分からなくなっていることがある。国会図書館では何でも見られるのを勘違いして、地元の図書館で印刷しようと思っただけなのにそれができない。図書館送信



サービスの画面で検索しないでNDLサーチから検索してしまつて、違いますよ、とお話することが度々ある。今度それが統合されてしまつとなかなか大変かな、という感想です。

▼A ジャパンサーチ(仮称)(資料62、64)を分けようとしている。NDLサーチをより使いやすくするために、NDLサーチは書籍分野に特化して、異質なものはジャパンサーチ(仮称)に入れNDLサーチを分離する。そうすることによってNDLサーチを図書館向きに使いやすくしたい。これは図書館送信サービス、これは(国立国会図書館)館内限定です、ということを分かりやすく出せるようにしたいと思っている。

▼Q 資料56(公共・大学図書館によるデジタル化)に「郷土資料など」とあるが、大学図書館の立場からすると郷土資料というよりは

学や研究所で作成した成果物（＝部数も少なく絶版になったもの）、そういったものも可能なのか。

▽A 売られてさえいなければ、基本的に当てはまるのではないか。許諾をとるのが難しい雑誌・新聞は対象としてもいいのでは、と思っっている。「郷土資料など」というのは、「絶版等の理由による入手困難なもので貴重な資料」という意味で、実際に東大図書館でも新聞のデジタル化を検討していると聞いている。

▼Q 新聞というのは商業新聞も含めてのことか。

▽A 多分、昔の地方新聞など、今は現存していないものだと思う。

▼Q 「郷土資料など」というのは例示しただけで、法的には「絶版等資料」ということで、第31条第1項第3号で複製を作ることとはできないということは数年前から言われていた。今回、第41回文化

審議会著作権分科会の報告の中で明示されたことは貴重なことだ。複製ができることは分かっていたが、複製したものを利用提供できるか、という問題があいまいなままになっていた。映像資料も図書館では保存のために複製できる。だがそれを複製して媒体変換して貸出あるいは館内上映していいか、については「活用」になるので、権利者に聞いてくれ、ということになっていたのが実情。国会図書館がいろいろ考えてここまでやってくれて、文化庁も一生懸命考えた結果だと思う。現行法上、第31条のいろいろな状況を見ていったときに、2008年にできたデジタルの話と2012年から限定送信ができるようになった、この二つをうまく組み合わせると可能になる。

国会図書館がお金を出せる仕組みが作れないか。つまり今は「デジタル化したもの

を媒体でもらってそれを複製して送信する」という流れだが、公立図書館にはお金がない。国費はケタが違う。

▽A お金のケタは違うかもしれないが、やらなければいけないことがたくさんあって、なかなか難しいところがあると思う。

▼Q 公立図書館での送信サービスの普及率はどのくらいなのか。国会図書館のデータを見られる、という話を聞いても図書館現場では態勢がなかなか整わない。国会図書館が頑張っているのに、市町村立図書館（とその利用者）は恩恵を受けられないところの実態がある。全国の市町村立図書館に普及できるようになものや国の施策として考えていただきたい。

▽A 国のデジタルアーカイブを巡る動き（資料47（55）は2014年頃から活発になってきている。NDLサーチについても手を挙げているが、それにより公共図書

館等のデジタル化支援が国の施策として進むといいと思っっている。（文責・手嶋）

映画情報：金高兼二監督  
「ウォーリーの謎のリスト」  
（「疎開した40万冊の図書」の続編ともいえる映画）

10月29日（土）～11月4日（金）  
神保町シアター、  
11月5日（土）～11月13日（日）  
東京都写真美術館ホール

シネマボックス HP参照

### 定款変更が 認証されました

#### 認証されました

5月の総会で議決された定款の変更について、東京都より8月29日付で認証書が届きました。

今回の変更は、「NPO法の改正等に伴う定款変更について」という東京都の指示によるもので、主に用語等の変更です。

会員には新定款を『通信』今号に同封しました。

『「多摩の共同保存のいままでとこれから」記録および資料集』完成しました！

東京都教育委員会が『今後の都立図書館のあり方』社会経済の変化に対応した新たな都民サービスの向上を目指して』を発表したのは2002年2月。

この報告書発表に先立つ2001年9月の都立多摩図書館所蔵資料の突然の大量一括廃棄に疑義を呈し、NPO法人共同保存図書館・多摩の前身となる活動を始めて十年となるのを機に、活動の原点を確認し、今後の活動の契機にしたいと、2012年5月の総会では標記のシンポジウムを開催しました。発端となった都立図書館資料の14万冊廃棄↓町田市立図書館の5万冊預かり↓八王子市立図書館の多摩地域資料一括受入れを辿り、現状について

共通認識を持つことができたと思います。

その後、このシンポジウムの記録を冊子にして刊行することを決めたのですが、発行に至るまで呆れるほどの時間を要してしまい、申し訳ありません。というのも、パネラーの一人である私が、シンポジウムの自分の録音を聞き直して、皆さまにご理解いただくには、説明不足・資料不足の感を強く持ったため、当日配布のレジュメの文章化と資料の追加を強く希望したのが大きな原因です。

今回の『記録および資料集』発行にあたり、改めて都立図書館の『事業報告』、『事業年報』、『事業概要』、『館報ひびや』、『研究紀要』、『例規集』などから都立図書館の図書館協力や資料保存（特に、「再活用」）についての考え方の変遷をまとめてみました。多摩デポが

事あるごとに出してきた文書だけでなく、都立図書館から市町村立図書館への通知文書や東京都市町村立図書館長協議会の取組み経過も資料として添付していますので、じっくりお読みいただければ幸いです。簡易製本ですが、10月20日付で180部作製し、会員の皆様と多摩の市町村の図書館等には『多摩デポ通信』と同時にお届けします。

東京都は、「図書館振興計画」を1971年度に実施に移して以来、初めて、図書館協力のあり方と資料の保存と利用についての考え方を大転換しましたが、多摩デポは「都民の築いた文化を残し、利用しながら継承していく図書館の営みは、都と区市町村の対等の協力が必要」という立場を堅持して活動を続けていきます。なお近日中に多摩デポの

ホームページにもこの冊子全文を掲載することになっていますので、どうぞご利用ください。（事務局 雨谷）



### 「よみうりたま手箱」 コラム新作を同封

『読売新聞』多摩版「よみうりたま手箱」に図書館にまつわるコラムを載せています。会員には『多摩デポ通信』前号以降に書いた分を同封します。

▼8月24日（水）  
「幅広い本の世界に敬意」  
（堀渡）

▼9月28日（水）  
「資料との『出会い』演出」  
（蓑田明子）

▼10月26日（水）  
「50年後まで残したい本」  
（堀渡）

## 多摩デポが遠方から 注目されています

理事長 座間直壯

8月下旬に関西の県立図書館から、多摩デポの話聞きに來たいとのメールがはいつてきました。その県立では電子図書館サービスを行う検討を進めており、電子書籍導入や、地域資料デジタル化、地域出版社と協力したデジタルコンテンツ制作、先進技術を入れたデジタルアーカイブや館内サービスなど、幅広い案が挙がっているとのこと。

多摩デポについては、共同保存図書館の理念や取組を文献等で見、県立の電子図書館構想に大きな示唆を与えてくれるように感じています。県立としてそれをどう具体化していけるかを考えたことでした。9月16日に調布市の図書館でお会いしました。県立から2人がお見えになり、場所を提供して

いただいた小池館長にも同席いただき、堀事務局長と私と3人で対応しました。県立図書館が目指していることなどを伺った後、多摩デポのこれまでの取り組みなどを説明しました。県立図書館が新たな展開を迎えている気配を感じ、市町村との連携に加え県の図書館の中核としてデジタルを活用した様々な取り組みが始まっていることを知ることができました。

2人の方は多摩地域の図書館連携や日頃の活動に注目しており、多摩デポ発足の背景や職員との連携、都立との関係などを聞かれました。先方では県立と市町村との連携強化を進める中で資料の現物保存をどう考えるかなど、様々な模索をされている様子が伺え、有意義な時間を共有できました。

もうひとつは、多摩デポ講座に参加された方の話です。10月6日の講座には大阪か

らの参加者がいらつしやいました。大学図書館職員の方で、この講座のためだけに東京に來られたそうです。動機を伺うと、大学図書館が地域連携を課題にしており、上司から、こういう事業が東京であるようだから行つて話を聞いてくるように言われたとのことでした。講座内容にも大変興味を持たれていましたが、多摩デポがどのように地域連携し活動をしているのか、じかに話を聞くことも目的だったようです。

私たちの活動が遠方でも注目されている？この2件ともホームページを見て、アクセスしてこられました。TAMALASもホームページが入り口。ホームページで自ら発信していくことの大切さを感じています。常に情報を更新し維持していく作業は大変ですが、注目されていることを認識し、取り組みたいと思います。

## カーリルとの共同研究報告

その8

### TAMALASの バージョンアップ

TAMALASを公開してから、さまざまな希望もいただき、改良したい点が見えてきました。10月3日に今までの懸案事項を検討し、改良できる点はシステムへの反映を行いました。

検索結果に書名が表示されるようにし、何らかの理由で図書館システムにアクセスできなかった場合は、その自治体名をグレーの枠に入れて表示するようにしました。所蔵館がラスト2以下の時には警告音が鳴るようにしました。

今回改良した点を次ページの図で説明しています。

さらに使ってみて、ご意見をお寄せ下さい。皆さんの意見をお聞きしながら改良を加えていきます。

ISBN にハイフンやスペースが入っていても  
正しく検索できるようになりました

多摩地域公共図書館蔵書確認システム  
TAMALAS がバージョンアップ



多摩地域でラスト2以下の場合、  
警告音が鳴るようになりました

都立図書館の所蔵を色分け  
してわかりやすくしました

外国語資料でも正しく  
検索できることを  
確認しました

国立国会図書館の書誌情報と連携して、  
書名が表示されるようになりました



33434543543      検索  
ISBNが正しくありません

システム更新中などで、エラーとなっ  
た図書館がわかるようになりました  
(エラーのアイコンが表示されます)

バーコードの読み間違いや入力ミスをしたときにエラーが表示さ  
れるようになりました

## 図書館資料の里親探して 大槌町立図書館支援

東日本大震災から5年半以上が過ぎました。東北地方の沿岸部を訪れると、各地で土地の嵩上げや防潮堤の工事がどんどん進み、風景が一変していて、びっくりさせられます。

図書館も各地で新館計画が進行中。津波で全壊し仮設開館中の陸前高田市立、大槌町立、南三陸町立図書館は、平成29～30年度にかけて再建が成る予定です。

そのひとつの大槌町立図書館へ、多摩デポの図書館資料の里親探し事業で在庫中だった参考図書を、日本図書館協会東日本大震災対策委員会の仲介により寄贈することになりました。

大槌町立図書館は、スペースが限られている公民館建物内の仮設図書室から新館（平成30年度開館予定）に移るにあたり、参考図書や各分

野の基本図書をこれから揃えようとしているところでした。

今回お贈りする『國史大辞典』は、セット中の第15巻の索引巻が欠本なのですが、大槌町は、少しでも予算を圧縮できるとよいので、「頂戴できればうれしい」と里親に手をあげてくださいました。町の皆さんにたくさん利用してもらえますように、と願いつつ、荷造りして本を送り出しました。

近年、竜巻や台風、地震など自然災害に次々と見舞われている日本列島。図書館も各地で被害にあっています。平成27年の関東・東北豪雨水害では常総市で浸水、今年4月の熊本地震では熊本・大分県内の各館が被災、8月には諫早市で落雷による火災により資料が被災、8月末の台風10号では東北や北海道で浸水等の被害がありました。気象の変化に対応し、図書館ではこれまで以上に、災害へ

### □ 「図書館資料の里親事業」とは……

多摩地域の市町村立図書館で、書架に余裕がなく“複本があるため除籍する資料”または“寄贈を受けたが既に所蔵しているため受入れない資料”のうち、“基本図書と思われ、市民リサイクル等に出すより図書館資料として再活用させたい資料”を、必要とする公共図書館等を探し出し、譲渡の仲介を行うものです。

資料価値と保存スペースの間で困っている図書館と、資料費不足の悩みを抱えたり今では入手困難な資料の収集をしたいと願う図書館との間をつなぎ、バックアップすることを目的としています。

の備えをしつかりしておく必要があります。

#### ★会の現勢

2016年  
10月25日現在

#### ●会員

(個人会員 91名)  
(団体会員 3団体)

#### ●賛助会員

(個人 41名)  
(団体 1団体)

会の活動はみなさまの  
会費ご寄付により支えら  
れています。新年度会費が  
まだの方は、納入をよろし  
くお願いします。

#### ●年会費

正会員 (個人・団体) 五千元  
賛助会員 一口二千元  
(個人一口団体五口以上)